

〔共済連だより〕

家畜診療日誌

北部基幹家畜診療所 審査主幹 犬間一郎

食の安全が叫ばれている今日、輸入うなぎにおける残留農薬、産地偽装、ごく最近では事故米（汚染米）転売事件、中国の業者が製造したメラミン入りの粉ミルク事件等、とても悪質で信じがたいような事件ばかり耳に入ってきます。食の第一線にかかわる我々産業動物獣医師としても食肉、生乳の出荷制限など特に気を使うところでもあります。

ところで、我々が酪農家へ往診すると、まず話題になるのが乳価と乳質（体細胞数）です。乳価はご存知のとおりこの春に上がりましたが飼料の高騰、その他の物価上昇を考えると焼け石に水といった感じですが。次に乳質（体細胞数）ですが、酪農家、獣医師にとって、とても厄介な問題です。酪農家にとってはペナルシーを課され直接乳価に反映され、獣医師にとっては潜在性乳房炎（伝染性乳房炎）等が隠れているからです。また、体細胞数が多い牛乳は乳脂肪、乳糖、総たんぱく質等も減少し旨み成分が減少した物となっているのです。

今回、この体細胞数減少のため家畜診療所が現在行っている対策、診療等簡単に説明しますので良質乳生産のためにもご理解の上、ご協力お願いいたします。

○ ミルカー一点検

NOSAI 家畜診療所では今年度よりミルカー研究会を立ち上げミルカーの点検機器を使用したより高度な点検技術の習得に励んでいます。

○ 急性乳房炎、慢性乳房炎対策

急性乳房炎あるいは慢性乳房炎（体細胞数が多い牛）が発症、発見した場合、家畜診療所では乳汁検査（細菌の同定、抗生剤の感受性）をして治療します。このことは薬物の乱用を防ぐとともに的確な治療を行うことができます。そのためには発見時、抗生剤を使用する前に検体（乳汁）を採取しておくことが必要です。なお、慢性乳房炎については頭数が限られますが損害防止のための検査も可能ですので NOSAI 獣医師にご相談ください。

○ 治療

治療は泌乳期、乾乳期によって変わります。慢性の乳房炎は乾乳期に静かに炎症が進行し、分娩時にドロドロとした膿を貯留した化膿性乳房炎として発見される場合が少なくありません。乾乳軟膏の使用はもちろん、泌乳期にすでに体細胞の多い牛は乾乳期治療（抗生剤の注射、乳房内注入）をぜひ行ってください。完治しにくい黄色ブドウ球菌によるものも約 50%は効果があるといわれています。また、乾乳後期に乳房に異常があるものは積極的に乳汁検査をして治療します。現在では乳房に異常がなくても分娩 10 日前くらいに検査し銜色以外のものは治療すべきであるといわれています。

○ 完治しない体細胞数の多い乳房

泌乳期に治療しても完治しない慢性乳房炎牛は肉転にするしかないのですが一分房だけであれば一分房の乾乳（クォーター・ドライ）、あるいは一分房の永久乾固と言う方法もあります。以上簡単に説明しましたが、不明な点等は NOSAI 獣医師に相談ください。

最後になりましたが、体細胞対策（乳質改善）は酪農家はもちろん関係機関の協力が無い限り良くすることはできないと考えています。これからもご指導、ご協力よろしくお願いいたします。そして家畜の健康と消費者が安心して消費できる生産物とその生産性向上に努めてゆこうと思いつながりながら診療車を走らせているこのごろです。